

2022 年卒
Vol. 03

1 月 1 日時点の就職意識調査

キャリアス就活 2022 学生モニター調査結果 (2021 年 1 月発行)

3 月の就職活動本番を 2 カ月後に控えた 1 月 1 日時点で、2022 年卒学生の準備状況はどこまで進んでいるだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。また、コロナ禍での大学生活についても考えを尋ねた。

1. 現時点の志望業界

- 「明確に決まっている」32.0%。前年同期調査をやや上回る
- 志望業界 1 位「インターネットサービス」、2 位「情報処理・ソフトウェア」。IT 人気続く

2. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

- 「将来性がある」が今年も 1 位。「給与・待遇が良い」「休日・休暇が多い」などは低下
- 柔軟な働き方「企業選びに影響する」86.0%。「在宅勤務」など遠隔勤務の注目度が高まる

3. 就職活動に関する情報の入手先

- 「就職情報サイト」が最多 (94.9%)。「各企業のホームページ (採用サイト)」が続く
- 就活での SNS 利用が広がり、LINE の企業採用アカウント登録者は過半数に (53.4%)

4. インターンシップ等 (※) 参加状況と参加後のアプローチ

- 参加経験を持つ学生は 8 割強 (86.9%)。「今後も参加したい」が 8 割超 (83.9%)
- インターンシップ参加後に企業からアプローチを受けた学生は 9 割強 (94.4%)

5. 1 月 1 日時点の本選考受験状況と内定状況

- 「本選考を受けた」41.5%。前年同期 (35.2%) より 6.3 ポイント上昇
- 「内定を得た」8.7%。8 割超がインターンシップ参加企業

6. 就職活動解禁までの準備の進め方・方針

- 「インターンシップにたくさん参加したい」63.0%、「早期選考を受けたい」61.3%の順

7. 志望企業との対面での接点

- 第一志望企業と対面での接触経験を持つ学生は約 4 割 (39.7%)
- 本選考が始まるまでに対面での接点は、「絶対に必要」22.9%、「できれば会いたい」53.5%

8. コロナ禍での大学生活への感じ方

- コロナ禍で「満足な大学生活が送れていない」7 割強。就職活動への影響を懸念する声も

※「インターンシップ (就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1 日以内のプログラム等も含めて尋ねた

調査概要

- 調査対象 : 2022 年 3 月に卒業予定の大学 3 年生 (理系は大学院修士課程 1 年生含む)
 回答者数 : 1,164 人 (文系男子 356 人、文系女子 357 人、理系男子 332 人、理系女子 119 人)
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2021 年 1 月 1 日~6 日
 サンプルング : キャリタス就活 2022 学生モニター (2016 年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. 現在の志望業界

1月1日時点での志望業界の決定状況を尋ねたところ、「明確に決まっている」という学生が3割を超え(32.0%)、前回の11月調査(27.3%)より4.7ポイント増加した。前年同期(29.5%)をやや上回り、志望業界決定のタイミングが早まっている様子が見て取れる。とりわけ理系において早く、理系男子では半数近くが「明確に決まっている」と回答した(45.8%)。

具体的な志望業界を尋ねたところ(40業界から5つまで選択)、最も多いのは「情報・インターネットサービス」(18.8%)で、ここに「情報処理・ソフトウェア」(16.4%)が続き、前年に引き続きIT業界に人気が集まっている。

志望業界は属性によっても異なり、文系男子では「銀行」が首位で、文系女子は「マスコミ」。理系は製造業が上位に多く、理系男子は「電子・電機」、理系女子は「医薬品・化粧品」が最も多い。

<志望業界の決定状況>

	全体	(11月調査)	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	32.0	27.3	29.5	30.1	19.3	45.8	37.8
なんとなく決まっている	44.8	51.3	44.4	41.6	53.2	38.6	47.1
決まっていない	23.1	21.4	26.1	28.4	27.5	15.7	15.1

<志望業界(上位 15 業界)>

		※5つまで選択 (%)								
	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子					
1	情報・インターネットサービス ①	18.8	銀行	28.2	マスコミ	20.5	電子・電機	25.4	医薬品・医療関連・化粧品	30.7
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ②	16.4	商社(総合)	18.8	銀行	18.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	23.6	水産・食品	27.7
3	建設・住宅・不動産 ⑥	15.9	官公庁・団体	18.4	建設・住宅・不動産	17.8	情報・インターネットサービス	22.9	素材・化学	26.7
4	銀行 ⑩	15.6	運輸・倉庫	18.4	水産・食品	17.4	自動車・輸送用機器	21.4	建設・住宅・不動産	21.8
5	水産・食品 ④	15.2	情報・インターネットサービス	17.3	商社(総合)	16.6	素材・化学	20.4	情報・インターネットサービス	17.8
6	官公庁・団体	14.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.7	情報・インターネットサービス	16.2	機械・プラントエンジニアリング	17.9	電子・電機	16.8
7	電子・電機 ③	14.0	調査・コンサルタント	15.7	商社(専門)	15.8	建設・住宅・不動産	15.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.9
	素材・化学 ④	14.0	マスコミ	13.7	医薬品・医療関連・化粧品	13.5	エネルギー	15.0	精密機器・医療用機器	12.9
9	医薬品・医療関連・化粧品 ⑧	13.4	保険	12.2	官公庁・団体	13.1	精密機器・医療用機器	14.6	官公庁・団体	10.9
10	自動車・輸送用機器	12.0	建設・住宅・不動産	11.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	10.0	医薬品・医療関連・化粧品	13.6	マスコミ	9.9
11	調査・コンサルタント ⑦	11.7	商社(専門)	11.8	調査・コンサルタント	10.0	通信関連	12.9	自動車・輸送用機器	8.9
12	商社(総合)	11.5	水産・食品	11.4	教育	9.7	官公庁・団体	12.5	エネルギー	7.9
13	マスコミ ⑨	11.4	信用金庫・労働金庫・信用組合	10.2	保険	9.3	調査・コンサルタント	12.5	農業・林業・鉱業	7.9
14	運輸・倉庫	11.2	エネルギー	9.0	素材・化学	8.9	水産・食品	12.1	通信関連	5.9
15	エネルギー	10.7	自動車・輸送用機器	8.6	エネルギー	8.9	運輸・倉庫	10.0	運輸・倉庫	5.0

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

印刷・パッケージ	5.0
OA機器・家具・スポーツ・玩具他	5.0
ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	5.0

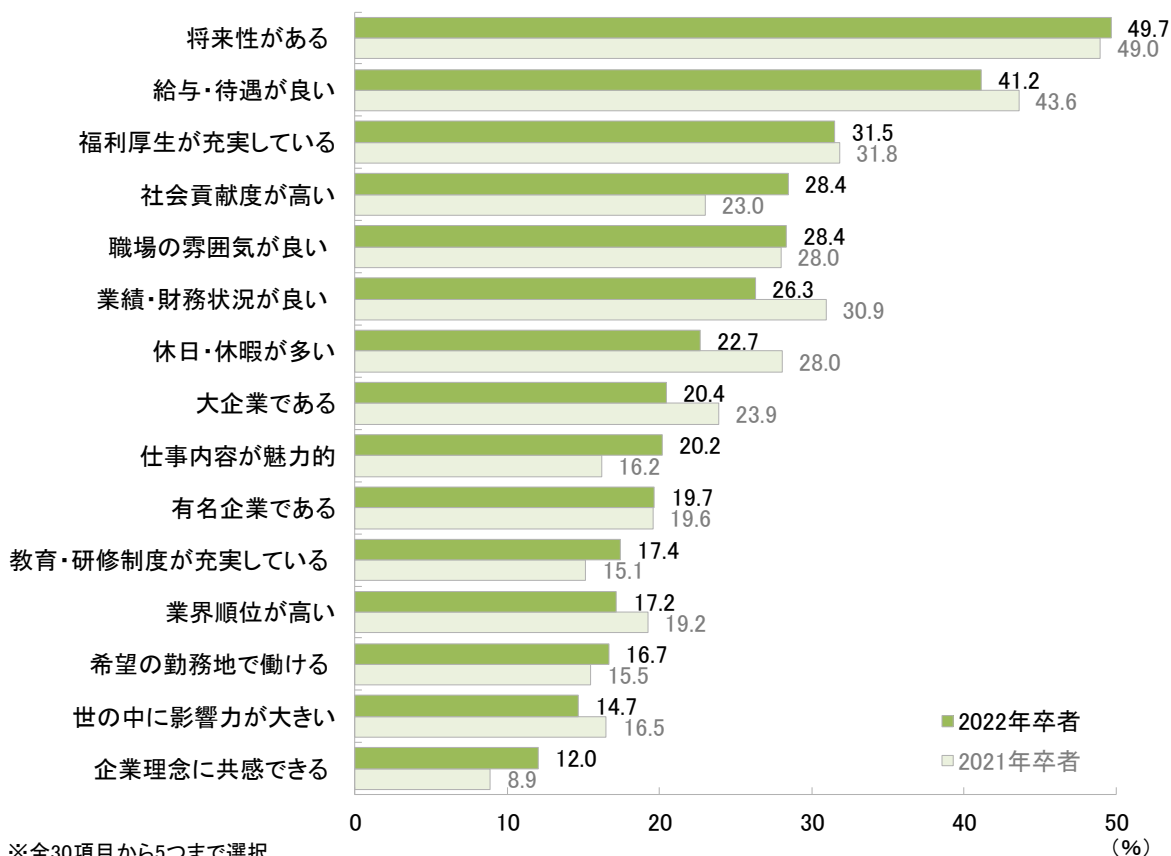
2. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先企業を選ぶ際に重視する点を 30 項目の選択肢の中から 5 つまで選んでもらった。

最も多いのは「将来性がある」で、49.7%と前年調査に引き続き今年も約半数が選んだ。次いで 2 位に「給与・待遇が良い」が続くが、前年調査よりポイントは減少した (43.6%→41.2%)。他にポイントが減ったものとしては、「休日・休暇が多い」(5.3 ポイント減)、「業績・財務状況が良い」(4.6 ポイント減)、「大企業である」(3.5 ポイント減) などが挙げられる。コロナ禍で学生優位の売り手市場に陰りが見える中、より現実的な選択へと舵を切ったようにも見える。

一方、ポイントが上昇した項目は、「社会貢献度が高い」(23.0%→28.4%)、「仕事内容が魅力的」(16.2%→20.2%) など。SDGs (持続可能な開発目標) の浸透によって、若い世代の社会的課題への関心が高まり、仕事を通じた社会貢献を意識する層が増えてきている可能性をうかがわせる。

＜就職先企業を選ぶ際に重視する点(上位15項目)＞



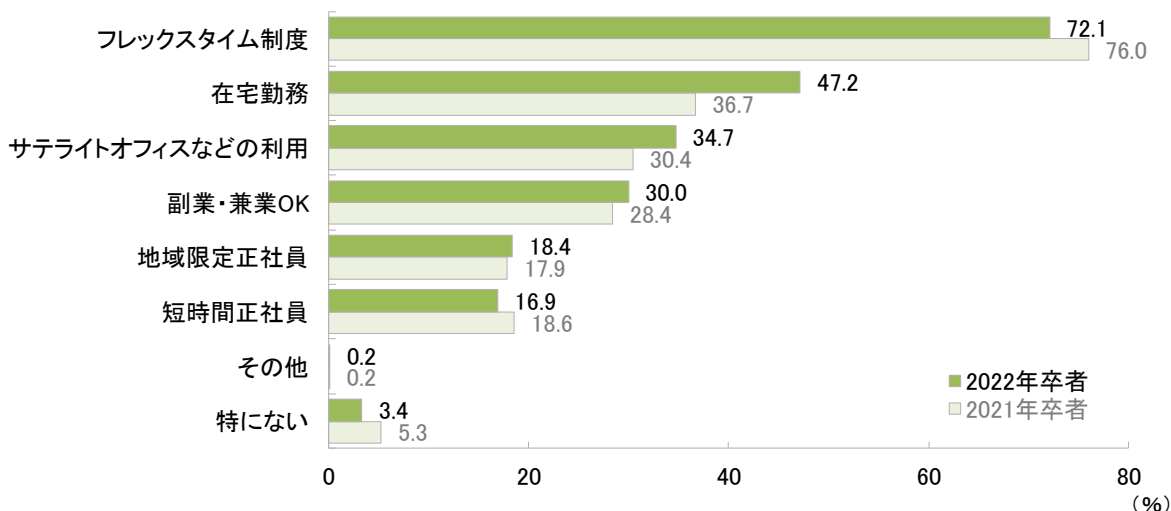
■企業を選ぶ際に重視したい点

- 今後、AI などが仕事を奪っていく上で、業種の将来性はかなり重要だと思う。 <理系男子>
- 社会貢献している実感は欲しいです。それと常に自己成長し続けられる環境がより良く整っている企業に魅力を感じます。 <文系男子>
- 自分の仕事に誇りを持って働くため、企業の存在意義や価値観を表す企業理念を特に重視しています。 <文系女子>
- 健康のためにも福利厚生が充実していることは必要条件だが、それだけでなく、いろんなことにチャレンジさせてもらえる環境だとなおよい。 <文系女子>
- 社会基盤を支えるような、世の中になくてはならない仕事ができることを重視しています。 <理系男子>

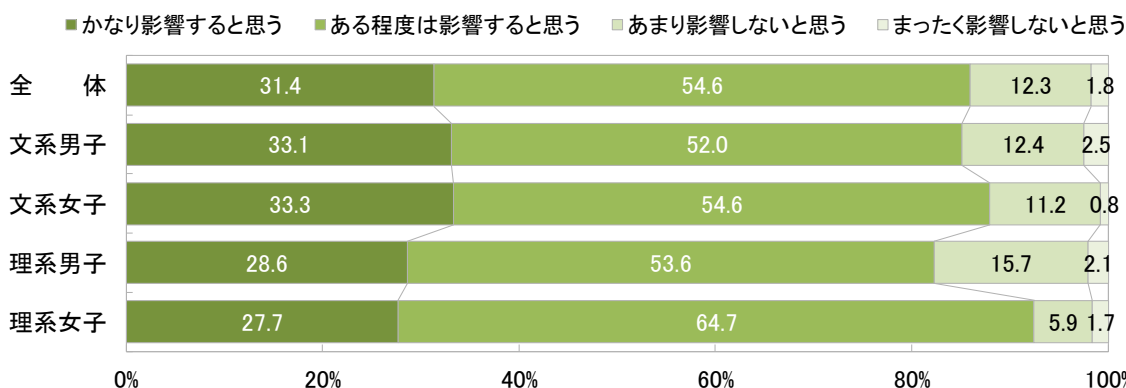
働き方改革の一環として、多様で柔軟な働き方に対する関心が高まる中、学生はどのような働き方を魅力的と捉えているのだろうか。あてはまるものをすべて選んでもらったところ、最も多いのは「フレックスタイム制度」で、7割強が選んだ(72.1%)。ただし、前年調査に比べポイントはやや下がった。一方で、「在宅勤務」「サテライトオフィスの利用」といった、オフィスに出社することなく働ける遠隔勤務がポイントを上げているのが目立つ。コロナの感染拡大防止策として導入する企業が格段に増えたことで、注目が高まっているのだろう。

遠隔勤務に限らず、柔軟な働き方ができるかどうか就職先選びに影響するかを尋ねると、「かなり影響する」「ある程度は影響する」を合わせて8割以上(計86.0%)が「影響する」との考えを示した。

<魅力的だと思う働き方(柔軟な働き方)>



<「柔軟な働き方」の企業選びへの影響度合い>



■柔軟な働き方への考え

○働き方がすべてではないが、やはり柔軟な働き方ができない企業では、今後の意思決定も硬直しているのではないかと不安になってしまう。 <文系男子>

○柔軟な働き方が認められている方が、出産や結婚などをしたときに仕事を続けやすいと思う。 <理系女子>

○コロナ禍でテレワークの導入が進んでいる企業と進んでいない企業との間に、かなり大きな差があると感じる。 <文系女子>

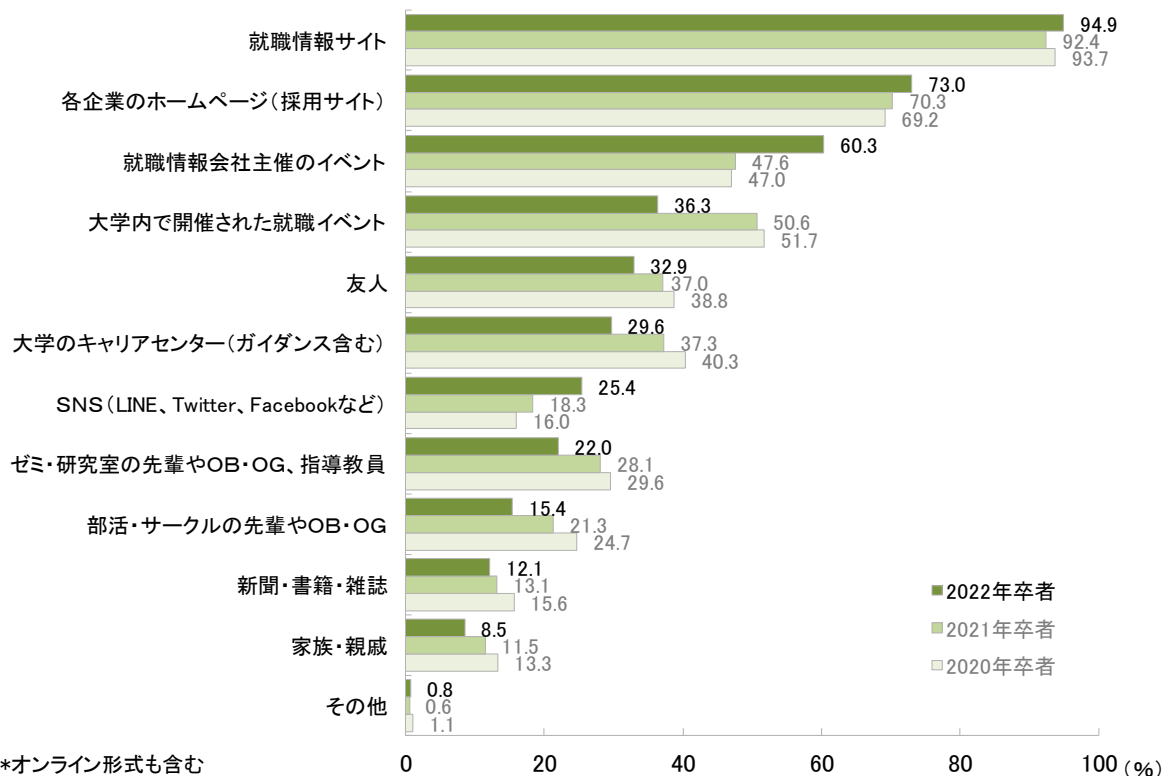
○働き方にどのような制約があるかには、業界の特性やその企業の理念が反映されていると思う。 <文系男子>

○選択肢があるに越したことはないが、自分はそこまで柔軟な働き方はしないと思う。 <理系男子>

3. 就職活動に関する情報の入手先

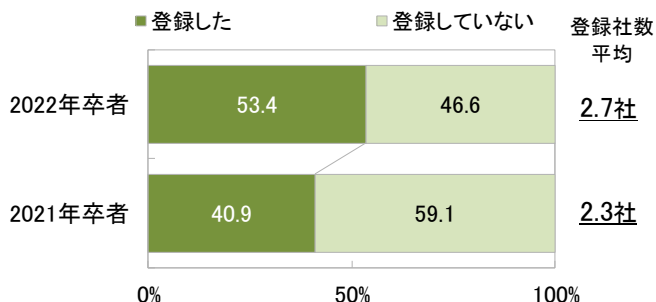
就職活動に関する情報の入手先を尋ねたところ、最も多いのは「就職情報サイト」で 9 割を超えている (94.9%)。次いで「各企業のホームページ (採用サイト)」(73.0%)、「就職情報会社主催のイベント」(60.3%) が続く。「就職情報会社主催のイベント」は、前年同期より 12.7 ポイント増加。オンラインでの開催の増加に伴い、参加しやすくなった学生も多いと推測される。そのほか「SNS」も 7.1 ポイント増加するなど、オンラインを中心に情報収集を進めている様子が表れている。

＜就職活動に関する情報の入手先＞

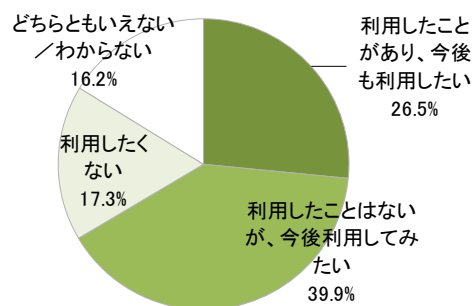


LINE で、企業の採用アカウントに登録している学生は 5 割超 (53.4%)。前年同期調査 (40.9%) から大幅に増加しており (12.5 ポイント増)、就職活動において LINE の利用が広がっていることがわかる。LINE 上での企業のインターンシップや会社説明会等の予約については、「利用したことがあり、今後も利用したい」(26.5%)、「利用したことはないが、今後利用してみたい」(39.9%) で、合わせて 6 割強が「利用したい」と回答した (計 66.4%)。

＜LINEでの企業の採用アカウントの登録＞



＜LINEでの予約機能利用意向＞



4. インターンシップ等の参加状況と参加後のアプローチ

インターンシップ等のプログラムへの参加経験を尋ね、3カ年分のデータを比較した。

調査時点で参加経験を持つ学生は 8 割強 (86.9%)。プログラムの実施日数別に参加状況を見ると、最も多いのは「1 日以内」で 8 割を超え (83.7%)、前年調査と同水準。インターンシップ参加経験者のほとんどが「1 日以内」のプログラムへの参加経験を持つ。一方で、「5 日以上」は 23.2%と前年 (34.9%) から 10 ポイント以上減少。コロナ禍において長期プログラムの実施が難しい様子がうかがえる。

参加社数が最も多いのも「1 日以内」のもので、平均 7.1 社。前年より 1.5 社増と、大きく増加した。「2~4 日間」(2.7 社) も増加傾向が続いている。オンラインでの実施が増えたことで、とりわけ短期プログラムにおいて、参加機会が増えたことが読み取れる。

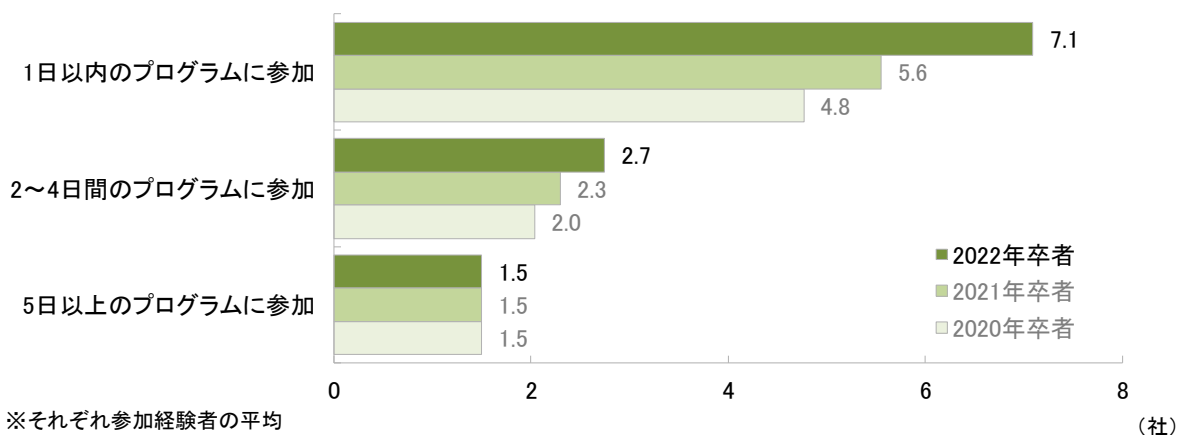
また、今後について尋ねると、「参加したい」という回答が 8 割を超え (83.9%)、大半の学生が参加意向を示した。参加を考えている企業数は平均 7.4 社で、前年調査に比べ 1.5 社多い。インターンシップ等への参加を通じて、企業や業界を広げたり、本選考の準備を進めたりしたいと考える学生が多いのだろう。

<プログラム日数別参加状況>

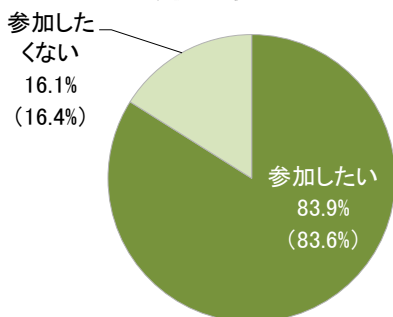
	全体	(2021年卒者)	(2020年卒者)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラムに参加	83.7	83.7	84.5	81.7	88.0	81.6	82.4
2~4日間のプログラムに参加	52.8	47.7	50.2	53.1	54.3	50.9	52.9
5日以上プログラムに参加	23.2	34.9	36.1	16.6	23.0	28.6	28.6

*オンライン形式も含む(以下同)

<プログラム日数別参加社数>

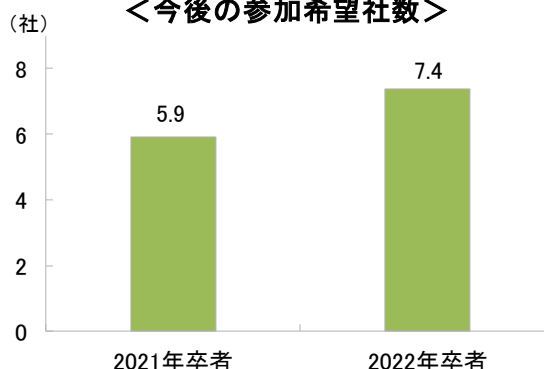


<今後の参加意向>



※()内は2020年1月調査の数値

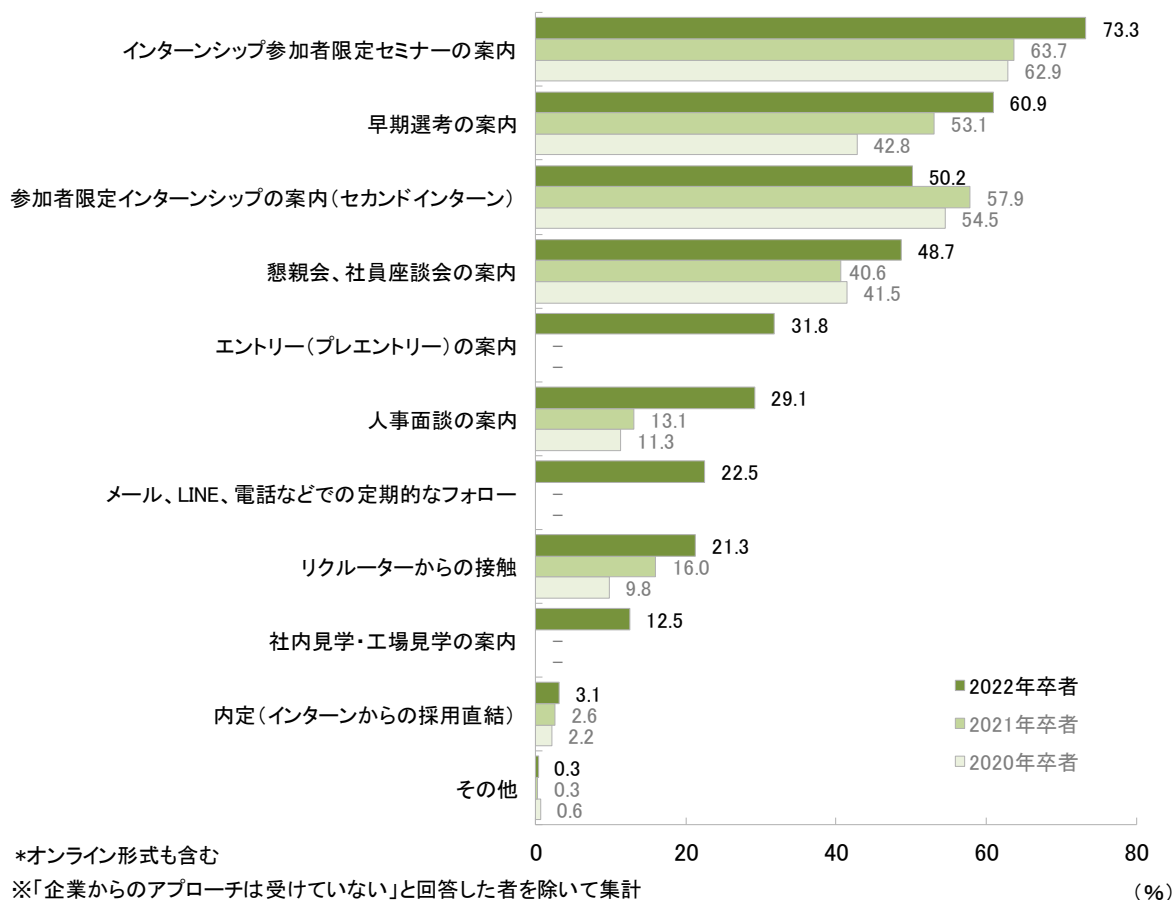
<今後の参加希望社数>



インターンシップ等への参加経験を持つ学生 (全体の 86.9%) を対象に、参加後に企業からアプローチを受けたかどうか尋ねたところ、「アプローチを受けた」学生は 9 割超に上った (94.4%)。前年調査 (90.2%) より 4.2 ポイントの増加。大半の学生が何らかのアプローチを受けており、インターンシップ参加後のフォローやアプローチは一般化している。

どのようなアプローチを受けたかを尋ねると、「インターンシップ参加者限定セミナーの案内」が最も多く、7 割強 (73.3%)。前年調査 (63.7%) より 10 ポイント近く増加した。「早期選考の案内」も増え、6 割を超えた (60.9%)。一方で、「参加者限定インターンシップの案内」は減少 (57.9%→50.2%)。インターンシップを重ねて実施するよりも、セミナーや早期選考へと繋げる動きが目立つ。コロナで対面での接触が制限されていることで、セカンドインターンの実施が難しくなった企業もあるだろう。

<インターンシップ参加後に企業から受けたアプローチ>



■あると嬉しいインターンシップ参加後のフォロー

- インターンを経て自分がやりたいと思ったことに、より近い業務を行っている人と面談ができれば嬉しいです。 <理系男子>
- オンライン開催だった場合、インターン参加者限定で、対面の社内見学や座談会などを実施してほしい。 <文系女子>
- SNS での接触があるとわかりやすく、ありがたいです。 <文系女子>
- 今年は社内見学ができないので、動画で働いている姿を見せてほしい。 <理系男子>
- 参加者限定インターンシップや早期選考などの案内があると嬉しく感じる。 <理系女子>
- 不参加者に比べ一歩リードしているという実感が欲しい。 <文系男子>
- 就職活動全体のアドバイスを設けている企業もあり、十分にフォローを受けていると思う。 <文系男子>

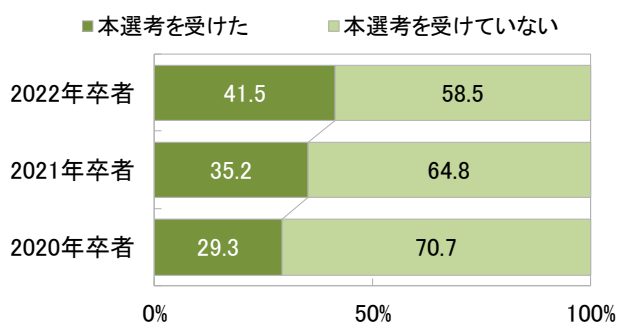
5. 1月1日時点の本選考受験状況と内定状況

本選考(採用選考)の受験状況を尋ねた。筆記試験や面接など「本選考を受けた」という回答が41.5%に上り、4割が早くも本選考の経験を持つことがわかった。この数字は年々上昇している。本選考経験者を分母とした受験社数の平均は3.0社。本選考受験企業の中にインターンシップ参加企業があると答えた学生は73.1%に上り、インターンシップから早期選考へとつながるケースが多いことがこのデータからもわかる。

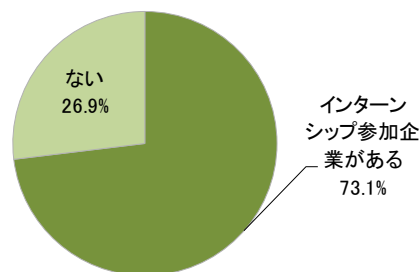
内定状況については、「内定を得た」との回答が8.7%。前年同期(7.0%)を1.7ポイント上回る。内定取得者の8割超(82.2%)が、インターンシップ参加企業から内定を得たと回答した。

なお、文系学生の方が理系学生よりも内定率がやや高く、現時点では先行している様子が見られる。

＜1月1日現在の本選考の受験有無＞

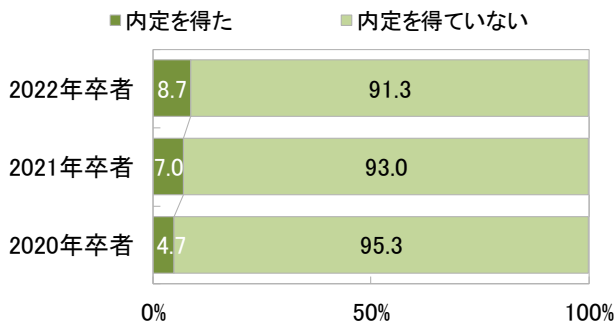


＜うち、インターンシップ参加企業の有無＞



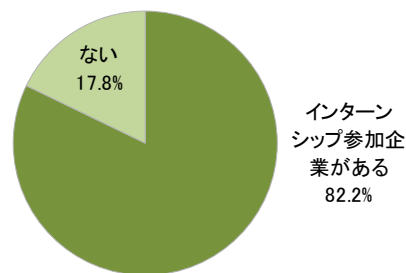
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	41.5%	35.2%	45.2%	47.1%	31.6%	41.2%
本選考を受けていない	58.5%	64.8%	54.8%	52.9%	68.4%	58.8%
選考企業社数(平均)	3.0社	2.4社	3.4社	3.1社	2.7社	2.3社
うち、インターンシップ参加社数(平均)	1.5社	1.1社	1.7社	1.6社	1.5社	1.0社

＜1月1日現在の内定の有無＞



*「内定」には、内々定を含む

＜うち、インターンシップ参加企業の有無＞



	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	8.7%	7.0%	9.6%	10.4%	7.2%	5.0%
内定を得ていない	91.3%	93.0%	90.4%	89.6%	92.8%	95.0%
内定社数(平均)	1.2社	1.7社	1.2社	1.2社	1.1社	1.2社
うち、インターンシップ参加社数(平均)	0.9社	1.2社	1.0社	0.9社	1.0社	0.8社

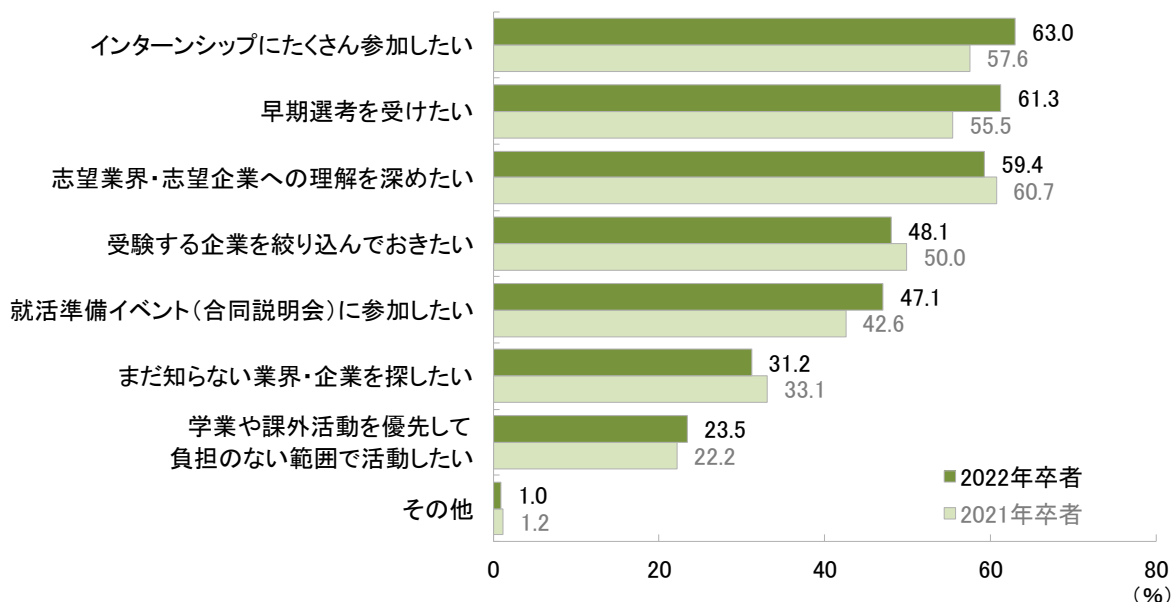
6. 就職活動解禁までの準備の進め方・方針

3月の就職活動解禁までに、学生はどのように準備を進めようと考えているのだろうか。

方針として最も多く挙げたのは「インターンシップにたくさん参加したい」(63.0%)で、次いで、「早期選考を受けたい」(61.3%)が続く。いずれも前年よりポイントを伸ばし、6割を超える学生が選んだ。新型コロナによる厳しい就職環境を予想し、インターンシップに参加することで、企業や仕事の理解を深めるだけでなく、早期選考につなげ、その後の就職活動を有利に進めたいと考える学生も少なくないようだ。

一方、「就活準備イベントに参加したい」(47.1%)、「まだ知らない業界・企業を探したい」(31.2%)など、就職活動が本格化する前に、できるだけ多くの企業を知りたいと考える学生も少なくないことがわかる。

＜3月の就職活動解禁までの準備の進め方＞



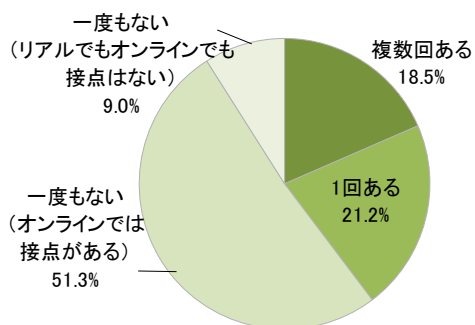
■就活解禁までの進め方・方針

- まず、自身に合った業界を見つけたいと思う。そのため、インターンシップなどでの情報収集も行いたい。
＜文系男子＞
- 第一志望群の企業を絞り切れていないため、研究活動と両立させながらインターンシップに参加し絞っていき
たい。
＜理系女子＞
- 9月から就活を始めたものの、インターン参加企業にばかり気を取られており、もう少し幅広く見たいと感じて
いる。
＜文系男子＞
- 後からこの業界についてもっと調べておけばよかったなどの事がないようにしたいので、できるだけ多くの業
界・企業を見たいと思っている。
＜文系女子＞
- 研究との両立が難しいため、早く企業を絞り込みたい。
＜理系女子＞
- だんだん希望する業界が決まってきているので、2月までには希望する企業を50社程度選びたい(企業研究も
終えている状態)と思っている。
＜文系女子＞
- 1月までは学業に専念しつつ、早期選考などで面接練習を重ねて本番を迎えたいと考えています。
＜文系男子＞
- 厳しい競争が予想されるので、できるだけ早期選考で内定をとっておいて、精神的に楽になっておくことが重
要だと感じる。
＜理系男子＞
- 対面・オンラインどちらにも対応できるように準備をするだけでなく、抜かりなく就職活動の対策を行いたい。
＜文系男子＞

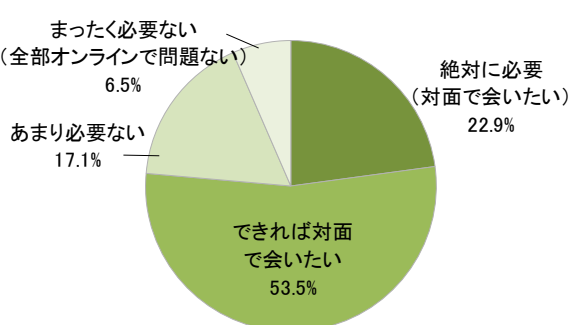
7. 志望企業との対面での接点

インターンシップやイベントなどで、現時点での第一志望企業と対面での接触経験を持つ学生は、「複数回ある」(18.5%)、「1回ある」(21.2%)を合わせて4割(計39.7%)。志望企業であっても、まだオンラインでの接点に限られている学生が多いのが実態だ(51.3%)。本選考が始まるまでに対面での接点が必要かどうかを尋ねたところ、「絶対に必要(対面で会いたい)」は約2割(22.9%)。「できれば対面で会いたい」(53.5%)を合わせて7割強が、志望企業との対面での接点が必要と回答した(計76.4%)。新型コロナの収束が見えない状況ではあるものの、可能ならば直接会って理解を深めたいというのが本音だろう。

＜第一志望企業との対面での接触経験＞



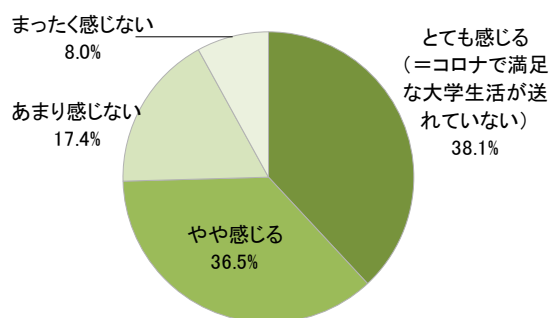
＜本選考前までのリアル接点の必要性＞



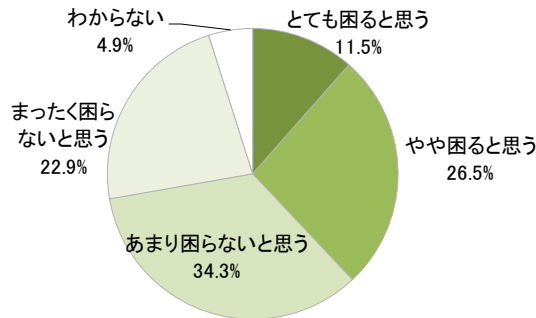
8. コロナ禍での大学生活への感じ方

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、大学生活を満身に送れていないと感じることがあるかを尋ねた。「とても感じる」(38.1%)、「やや感じる」(36.5%)を合わせると7割を超える(計74.6%)。授業のオンライン化で質が下がった、課外活動ができない、友人や先輩との交流が減少した、留学が中止になったなど、様々な制約を受け、本来の大学生活が送れていない様子がうかがえる。それにより、就職活動での自己PRやガクチカ(学生時代に力を入れたこと)の内容に困りそうだと感じる学生も、一定数見られる(計38.0%)。

＜満足な大学生活を送れていないと感じるか＞



＜コロナの影響で自己PRに困りそうか＞



■コロナで満足な大学生活を送れていないと感じる理由

- 実験の大半がオンラインによる実施となり、深く理解ができていないため。 <理系男子>
- 自己PRにするつもりだったゼミ活動を十分にできていない。 <文系女子>
- サークル・研究室等でイベントが盛りだくさんの予定だったが、コロナで中止になってしまった。 <理系女子>
- 予定していた留学がなくなって、ガクチカが作れなくなった。 <文系男子>
- 大学に行けていないので、友達と就活についての意見交換ができないから。 <文系女子>